（様式１）

ひょうご学力向上実践研究事業　事業計画書（作成年月日：8 年 4 月 24 日）

学校名	兵庫県立明石南高等学校	校長名	織邊　剛

【作成の注意】　※　各欄の行数は増やしてページ数が増えてもよい。

希望する研究テーマ

テーマ	生徒の主体性を高め、思考を深めるための組織的な授業改善

１　学力向上のための３年間の研究目標

・生徒が主体的に思考を深めていくための具体的な方法開発
・「明南スキル」の伸長を生徒・教員が共に主体的に目指すような体制づくり

２　研究のロードマップ（取組概要）

Ｒ６　１年目	Ｒ７　２年目	Ｒ８　最終年度
・「明南スキル」ルーブリックによる生徒の自己評価 （5・7・10・12・1・3 月実施） ・「明南スキル」に沿った教科横断的な授業研究会 （５月：研究授業・公開授業の設定 ６月：公開授業月間 ９月：研究授業事前検討会 10～11 月：研究授業実施 11 月：研究授業事後検討会 ２月：次年度に向けた検討会） ・「明南スキル」の練り直し （総合的な探究の時間）	・「明南スキル」ルーブリックによる生徒の自己評価 ・「明南スキル」に沿った教科横断的な授業研究会 ・「明南スキル」によって産業社会と人間、総合的な探究の時間、課題研究を評価する指標づくり	・「明南スキル」ルーブリックによる生徒の自己評価 →「明南スキル」の指標そのものから運用方法まで、抜本的な仕様変更を図る。 ・「明南スキル」に沿った教科横断的な授業研究会 →「生成 AI のある世界」を学校全体のテーマとして、各教科がテーマに関する授業を行う。

３－１　生徒の学びの現状（令和８年度の現状について記述）

現状

①「明南スキル」について
　ルーブリックによる学期に２度、年６度の自己評価を継続した。また、昨年度当初、教員の手をほとんど借りずに近隣小学校と連携して芸術や地域文化活動等多岐にわたる活動を行う生徒について報告を行ったが、その後現時点に至るまで、その活動が下級生にも受け継がれており、そこから「総合的な探究の時間」を通して下級生を含む他生徒の探究学習へ波及するなど、生徒主体の活動が学校の教育活動に影響を与える好事が見られるようになっている。このようなことを成し遂げる総合的な知性や非認知能力を図るツールとして「明南スキル」を改良していくことが求められている。

②研究授業を通して
　昨年度は「生徒の主体性を引き出す」をテーマに、教科横断的な授業の可能性を模索した。実践のラインナップは表の通りである。この実践を通じて主体性を引き出すための教科横断的アプローチのモデルを示すことができた。また、この実践以前に行われていたカジュアルな教科横断に気づくことができた。次の段階として、特定の教科だけでなく学校全体として協働していく志向の醸成が求められる。

テーマ	科目
算額（和算）	実践数学
	古典探究
AI meets the art	英コミュⅠ
	情報Ⅰ
近代日本の造形	日本近代史
	基礎造形
男女の役割の変化について	時事問題
	家庭基礎
3Dプリンタで燃料電池作成	理数探究
	情報
3Dプリンタで作品制作	素描
	情報

R6 年度より、総論的な取り組みから始めより各論的な取り組みへフェーズを移行していく流れで本事業を進めてきたが、今年度は最終年として総括的かつ今後も持続可能な取り組みを次につなぐ必要がある。

３－２　教員の指導の現状（令和８年度の現状について記述）

現状

「主体性」とは、ということについて問い直した一昨年度から、昨年度はより具体的な実践にチャレンジした。「問題解決の場こそ主体性が発揮される」「現実の問題解決は常に教科横断的である」という２つの命題を前提に、教科横断の可能性を模索した。当初から積極的なアイデアの提案があり、最終的には様々なラインナップの教科横断授業を実施することができた。昨年度掘り下げた方法論を、次の段階として、学校全体の理念や育てたい能力、総合学科としての学力といった理念的な事項に結びつけ、**学校全体として生徒の主体性を引き出す取組を実施しようとする志向が、今後さらに醸成される必要がある。**

４　研究取組内容の詳細（現状の課題解決のため実施内容、方法、連携先、成果検証、成果発信方法など）

内容

・「明南スキル」指標の改良と運用方法の適正化

全年次を対象に、学期に２回ずつ、年間計６回の自己評価を行って来た。昨年度は一部マイナーチェンジを加えることで自己評価のポートフォリオ的性質の向上を企図したが、取り組みの中で、指標自体の具体性や運用方法の問題が指摘された。そのため今年度は明南スキルを新しい時代に対応させるべく、より抜本的な改良を目指したい。

・全教科共通テーマによる教科横断授業「生成 AI のある世界」

昨年度は継続して「主体性」をテーマに据え、より挑戦的な試みとして、教科横断授業に取り組んだ。この際、特定の教科でペアを組み教科横断の授業を考案するという、いわばオーソドックスな教科横断授業を行ったが、今年度は一歩進み、学校全体で共通のテーマを共有しつつ、すべての教科がテーマに関連する授業を行う、という方式での教科横断を企画する。テーマは「生成 AI のある世界」としている。ここでいう「テーマに関連する授業を行う」とは、生成 AI を活用することに留まらず、生成 AI の仕組みや倫理など生成 AI にまつわるトピックを取り上げるといったことも含まれる。

５　令和８年度の活動計画（校内会議、授業研究会、校内研修、先進校視察等の予定）

活動計画

月日	場所	内容	外部講師等
5 月 15 日	校内研修	共通テーマに沿った授業案の考案・共有	
6 月～	校内授業研究	研究授業・公開授業①	
9 月 1 日	校内研修 （授業研究会）	研究授業事前検討会	岡山大学学術研究院教育学域准教授　池田匡史氏
9～11 月	校内授業研究	研究授業・公開授業②	
11 月 27 日	校内研修 （授業研究会）	研究授業の事後検討会	岡山大学学術研究院教育学域准教授　池田匡史氏
1 月 8 日	校内研修	今年度の検証及び次年度に向けて	
3 月	校内会議	次年度に向けての検証結果報告	
3 月	校内講演会	講演会（主体的に探究に取り組むために）	神戸大学 教授　石川慎一郎氏（予定）

６　令和８年度末の生徒の到達目標（身につけさせたい資質・能力や数値目標を明確に）

成果

①「明南スキル」について、目標設定を明確に行う。ポートフォリオ的活用に習熟する。
②「生活実態・学習状況調査」において「学校の授業が分かる」と答える生徒の割合を 15%、「次の学習につなげることができる」と答える生徒の割合を 40%にする。
③ICT 機器を創造的に活用して日々の学習に取り組む。
④生成 AI のある現実世界の解像度が高まる。

令和８年度末の教員の到達目標

①総合学科として育むべき学力の具体的イメージを獲得する。
②総合学科として育むべき「主体性」の具体的内容を認識した授業改善に日々取り組むことができる。
③ICT 機器を創造的に活用させる授業の工夫を行うことができる。
④教科横断授業に積極的に取り組む。

令和８年度末に到達する学校の姿

総合学科明石南高校が育てたい総合的な知性や非認知能力を図る具体的な自己評価指標が存在する。また総合学科明石南高校として育むべき・育まれるべき「主体性」を生徒・教員が共に認識し、特に生成AIの存在する現代の諸問題・課題に日々、教科横断的に取り組んでいく生徒の姿が見られる。